

**下関市総合計画審議会**  
**第3回「優しさ・安全」 議事概要**

|     |   |
|-----|---|
| 日 時 | 令和元年7月3日（水） 13：30～15：00                                   |
| 場 所 | 下関市役所本庁舎新館 5階 大会議室  |
| 出席者 | 下関市総合計画審議会委員 9名（欠席者3名）<br>下関市総合計画策定委員<br>事務局（下関市総合政策部企画課） |

**【次第】**

- 1 第2回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について
- 2 第2回専門部会における意見等への対応について
- 3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について
- 4 第2次下関市総合計画前期基本計画 目標指標の達成状況並びに評価結果について
- 5 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）における目標指標の設定について

**1 第2回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について**

**部会長**

本部会が取り扱っている内容について、他の専門部会に所属されているオブザーバーから意見を頂いている。事前に事務局から送付された意見を確認した結果、本部会の意見として取り扱うこととした。第6章の第1節に関して、「南海トラフ地震の発生が危惧されている現状において地震・津波にも言及しておく必要がある」とあるが、南海トラフ地震や菊川断層のことは極めて関心の高い話題である。部会としてもこの意見を参考にさせていただき、何らかの形に取り扱っていただきたい。オブザーバーからの意見はこの1件のみである。それでは、第2回専門部会における対応について事務局に説明願いたい。

**2 第2回専門部会における意見等への対応について**

**3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について**

**事務局**

（別紙1・別紙2を抜粋説明）

**部会長**

概要の説明をいただいた。ご意見があればお願いしたい。

## 委員

基本計画では、「保育士の確保に努め」と文言が入っているので、これでよいと思うが、実施計画、具体的な施策の段階で、保育士確保に関する手立てについて講じていただきたいと思う。前回、ここで話しした内容に付け加えると、北九州市は北九州市内の大学や短大などの養成施設を卒業して北九州市内の保育所に就職した保育士に対し、最大5万円まで家賃補助が出る。宇部市でも、この12月から保育士に対する就職支援金を支給すると案内があり、学生に周知している。両隣の市がこのような施策を行っていることを考えると、下関市では保育士不足が深刻でないかも知れないが、具体的な施策を検討いただければと思う。

## 部会長

皆さんのお手元に奨学金返済補助に関する資料が配布されていると思うが、企業の就職に関する定住を図るという意味合いで、5年間で60万円の補助が支給されるとしている。中村委員は、保育士等教育についても下関市としてやって欲しいという強い要望を述べられたと思う。今後、これらの奨学金制度の拡充について、しっかりと検討していただきたい。

## 委員

別紙1 No. 29に関して、コミュニティスクールの方々も市民活動保険の対象となるのか。学校が地域の方々とは活動する際、地域の方々には学校からお願いして来られることが多い。それも市民活動保険での対象と考えていいのか。

## 下関市市民部

市民活動保険とは市内に活動拠点を置き、5名以上の市民により自主的に組織された団体等が無報酬で行う継続的・公益性のある活動が対象になる。個別に確認する必要があるが、この条件でいえば対象となると思う。確認させていただき、回答したい。

## 委員

素案第6章5ページの『主要な事業』について、「消費者相談事業」の「者」は消さなくてもよいのではないかと。

## 事務局

事業名として正しくは「消費相談事業」である。ここでは事業名を記載していると認識していただきたい。

## 委員

第3章11ページに、『(7)「市内大学間の連携の推進」』とあるが、他の部会からの意見だろうか。大学から意見が出ているかどうか、お聞きしたい。

## 事務局

他の部会の部会長である水産大学の鷺尾先生からの意見に対応して加えた。

## 委員

他の方からでなく大学のメンバーである鷺尾先生からのご意見であれば異存はない。具体的にはどのような内容を想定しているのか。

## 事務局

市の総合計画ということで、下関市立大学に関して触れていることが多かったが、市内に5つある他の大学に関しても、大学間の連携ということで触れるべきだというご意見をいただいた。下関市立大学から具体的内容に関してはご意見をいただいている。

## 委員

例えば本学（下関短期大学）の学生が、下関市立大学や梅光学院大学の講義を受けることで、講座や単位の乗り入れの制度などをお考えなのではないかなと思う。他には下関市立大学に下関市内大学連携協議会を設置することなどが考えられるが、意図するところが解らなかった。

## 部会長

大学間同士での講義の連携に関する話は出ていないのか。

## 委員

無いと思う。私どもの大学（下関短期大学）の規則では科目と履修というのが学則である。他の大学の学生が本学で特定科目を履修して単位認定もできるし、他の大学から保育士や栄養士の資格を取るため本学（下関短期大学）に編入した人に関しては、編入前の学校で取得した互換性のある科目については単位を認めることができる。制度上は可能と思うので、各大学が公開したい講座を出し合うことなのかなと思う。

## 部会長

この部分で気になったのが、小中学校では「学習」と表記すると思うが、「学修」となっている。大学の場合はこれでよいのか。

(委員他、うなずく)

#### 部会長

第3章4ページを開いていただきたい。キーワードとして「生きる力」とあるが、14行目には「生き抜く力」と表現がある。下関市教育大綱の教育理念を「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志」と掲げていることもあり、「生きる」力よりさらに進んで自ら生きる「生き抜く力」のほうがよいのではないかと検討していただきたい。

#### 委員

別紙1 No.45に「ボランティア団体等」とあるが、市内にいくつボランティア団体があるのか。

#### 下関市保健部

現在、猫の譲渡に協力いただいているボランティア団体は2つである。

#### 委員

ボランティア活動は大変厳しい状態である。そういった活動に関する費用面について、市の方で少し援助できないのか。一番問題なのは猫を屋外で飼うこと。食事は室内で与えるがトイレは外に出したりする人がいるので、飼い主に室内で飼うことを徹底した方がよい。

#### 部会長

オブザーバーからの意見にあったが、第6章1ページ4行目の、防災・減災対策について更に詳しく具体的に描くべきか、これで十分なのか検討していただきたい。

#### 委員

私は現在、菊川に住んでいるので菊川断層は大変気になる。40年程前、福島県に住んでいた時に宮城県沖地震に遭遇したが、地震が起きたら全く動けなかったのが現状であった。次に何をしたらいいのかが全く解らないので、地震が起きた際に命を守るため住民が取るべき対応について、銀行や郵便局、市役所などの目につくところに貼っておくなどをしていただきたい。もしくは、市政だよりなどテレビ等の番組で、地震発生時に取るべき対応などが目につけば、良い手立てが取れるのではないかと。

#### 委員

第3章2ページの『各事業の方向』で、大まかなことしか記載できないことは承知しているが、第3章で『認定こども園の促設置進、保育士の確保』とあるが、具体的にどのよ

うに進めていくのか教えてほしい。幼稚園型のこども園が増えても仕方ないと思う。認定こども園の長寿命化に関しては、既に実施されているにも関わらず、「更に」と思われているのであれば、新たな施設を建てるのかと感じる。

また、保育士の確保でみると、市役所の職員は社会人枠の採用があるが、保育士は社会人枠の採用が無く、任期付きの3年雇用しかない。年齢制限を超えると市の職員での採用は無く、嘱託か非常勤かパートでしか雇っていただけない。私の周りでも能力があり本人が希望しているにもかかわらず正規雇用が無いと、年齢が高くなってもボーナスや退職金が出ない嘱託職員として働らかざるをえない。しかし正職員と変わらない業務をさせられている現状があるので、改善されないのか。

### 下関市こども未来部

まず長寿命化に関してだが、出生している子供の数は減少しているのに対し、保育園に預けたいというニーズは高まっていることを踏まえ、対応策を検討している。幼稚園、保育園の中には古いものもあるので、補修しながら施設を長く利用していきたい。認定こども園の設置促進に関しては、幼稚園・保育園の統廃合を含めて検討していくことになる。

保育士の確保について、今までの新規採用人数は、多い年と少ない年があり波があった。昨年度は16名退職したので、16名採用すればよいという意見もあるが、大きな波がある中で同数の採用を行うとその傾向が続くことになるため、6名を採用し、それ以外の不足する人員については、3年に一度しか実施しない任期付職員にお願いするというところで23名の採用で補っていく。全員正規にすればよいという声があるが、なかなか難しい。下関市では4割弱が正規職員で、3割が嘱託職員や任期付職員、残りがアルバイトである。私たちは対応策を講じているところであるが、会社と同じように定員の管理があるので、保育士だけ突出して正職員化するのは難しい。とはいえ、何とかして増やしていきたいとは考えている。

最近の育児休暇を取得した保育士の状況をみると、自分の子どもとは3歳くらいまではなるべく一緒にいてあげたいという声があり、その期間、育休を取られる人が一定いる。育休中に2人目の子どもを授かると、復帰の選択肢もあると思うが、退職してしまった場合、なかなか正規職員に復帰できない事実はそのとおりである。そのような人に条件のよい任期付職員を勧めるが、責任が重く、子どもの学校の行事や病院通い等もあり、なかなか任期付職員は難しく、アルバイトで続けたいという方もいらっしゃる。一方、正規職員になりたくてもなれないという声もあるかもしれない。ただ現状は、頑張って任期付職員の増員を進めていきたい。

### 委員

私の質問に対する回答とは少し異なっている。任期付採用は年齢制限の枠が広いのに、新規採用は採用時の年齢制限の幅をなぜ広げられないのか。任期付ということは3年で切

られる可能性があり、安定性がないのに、子どもたちの保育を任せるのはおかしいと思う。

#### **下関市総務部**

年齢の幅については検討の余地がある。現在、下関市は行政職員においても社会人枠の採用は基本的に行っていない。過去に社会人枠を実施したのは、職員の年齢構成にバラツキがあり年齢層の薄い部分を補強したかったからである。今、社会人で採用しているのは、移住・定住者のみである。下関市に定住してもらうため、下関市以外に住んでいる方が下関市に帰ってきていただく場合のみ、政策的に採用している。職種によってある程度幅が無いと応募者数が集まらない場合に広くするが、基本的には高卒・大卒から何歳までと決めて年齢構成のバラツキのないようにしている。保育士でも応募者数が少なくなってくれば、年齢制限の幅を広げる検討をしたい。

#### **委員**

県の教員採用試験はかなり枠が広がっているのに、保育士だけなぜ年齢制限の枠が狭いのかと感じる。

#### **下関市こども未来部**

こども未来部は、潜在保育士の復帰は重要であると考え、真剣に検討している。保育士を養成している短大などは、地元就職志向が強いが、東京・関西・福岡など賃金の高い他地域に流出してしまっている。新卒者を採用しないと今後、取り返しのつかないことになる。新規採用もしっかり行いながら、中途採用もとなると、正規職員の割合が増えるので、頑張らなければならないと思う。

#### **委員**

第一部会に関連する第1章だが、インバウンドの関係で海外の方が多く来られる。全国的に中国語、ハンガルの案内、Webサイトなど翻訳に関する間違いが多いというニュースをよく見る。原因は、他自治体では職員のネット翻訳による間違いが多いとのことだが、下関ではどうなっているか。

#### **下関市総合政策部**

国際課には韓国に派遣した職員もいれば、韓国・中国から派遣されている職員もいるので、その者になるべく確認している。現にインバウンド、労働者等で外国人の方が多くなっている中、多文化共生ということで、新たな取り組みとして記載を加えている。

#### **委員**

先ほど職員採用の話があったが、私の子供も下関から出ていったきり、帰ってきていな

い。8月に、下関市の大企業・中小企業含めたj o bフェアがある。下関市で育った若者が帰ってきて就職する場所を知ることのできるよい機会なので、委員の皆さんもご参加いただきたい。

#### 委員

私どもの障害者の団体の総会で意見が出たのが、駐車場に障害者専用区画があるが、ドアを全開にしなければ乗り降り出来ないにも拘わらず、横に車が寄せられていて降りることができないため使いたくても使えないとのことであった。施設というよりも市民のマナーアップの問題だが、ご理解していただけるとありがたい。

#### 委員

私は市政の気になることに関し、よく話を聞きに行っている。上下水道の出前講座に参加したが、素晴らしくよいパンフレットを頂いた。友人が健康食品の通販に騙されて、消費生活センターに行ったが、素晴らしいパンフレットを渡された。住民は困ったときにどうするかというと、自分の一番身近なところに聞きに行く。こういった概念みたいなことを書かれるより、具体的なことを市民に提示すべきである。例えば、まちづくり協議会の参加者のどこまで保険をかけることが出来るのか、といった部分をはっきりさせるべきである。どこの窓口に行って、何を言ってどうすればよいのかを教えてほしい。まちづくり協議会は、今はお金が出ているのでやっつけているが、減額されるとうまくいなくなるのではないか。立派なパンフレットを作るためにお金を使うよりも、例えば総合受付を作って窓口案内するなど、市民に寄り添って施策を検討してほしい。

#### 事務局

総合計画に関しては、大きな方針を示すもので、ご指摘の部分に触れていないように見えてしまっているかもしれない。次の段階の実施計画はもう少し細かい事業計画を決める。この総合計画に関しては、大きな方向性を記載するという事で理解してもらいたい。

#### 委員

言っていたことは、そのとおりであるが、審議会に来ている人たちは普段生活している中で感じたことを言っているので実施計画レベルの話になってしまう。その辺りの思いを汲み取っていただきたい。むしろ、実施計画でこのような場を設けていただきたい。

#### 下関市保健部

前回、板倉委員から動物病院の看護師についてなにか動きがあるのではないかとご指摘いただいた。動物病院の看護師というのは、獣医師の治療行為のサポートを行う職業である。

これまでも一部の大学や専門学校で、獣医師の医療行為をサポートする行為を動物看護師として養成してきたが、公的な資格ではなかった。近年の愛玩動物への医療ニーズを受け、前回の部会後の2019年6月21日に愛玩動物諸法案が成立しており、3年以内に施行される。今後は、国家指定を受けないと動物看護師を名乗れなくなる。動物看護師を全国統一の国家資格を要する動物看護師として位置付けることで、業務の明確化、動物医療業界の発展につながるのではないかと思う。

#### 部会長

それでは後期基本計画における目標指数と前期の目標指数の結果について事務局に説明いただきたい。

#### 4 第2次下関市総合計画前期基本計画 目標指標の達成状況並びに評価結果について

#### 5 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）における目標指標の設定について

#### 事務局

（別紙3・別紙4を抜粋説明）

#### 部会長

今、別紙3、4について説明していただいた。これについて意見は無いか。

#### 委員

表の見方がよくわからない。例えば、別紙3 No. 20の認定こども園設置数は、増加しているのに、評価が下向きとなっている。

#### 事務局

これについては、5年間、目標値を目指して順調に推移していたが、平成30年度の目標値である28カ所を達成していないので、結果として下向き評価となった。

#### 委員

平成27年度から29年度は相対的に前年度と見比べてということなのか。

#### 事務局

そのとおりである。

#### 委員

私は5年前も今回もアンケートに答えたが、2,000人を抽出してアンケートを送り、



回答者には高齢者が多かったと聞いた。どんな集約をしたか、評価をしたが矢印が下がった、上がったでは、わからない。選択肢が5段階では評価できない。

#### 事務局

今いただいたのは、市民実感調査の内容であると思う。全てではないが、毎年同じ内容が無作為で抽出した市民に送付している。年齢構成・住まいの地域もなるべく実際の構成に合わせるように心がけている。ものすごく簡単な例をあげると、「住みやすさ」を評価する部分があるとしたら、「住みやすい」と答えた人が何%いたかという数字を毎年取っている。パーセンテージを目標とするものは、認定保育園の目標と異なり、それを目標としているので、毎年確認している。

#### 委員

だとしたら平成31年度目標指標を考慮して、上がり下がりを決めるというのは、話が違ってくるのではないか。

#### 事務局

例えば、市民実感調査を目標とすれば、50%を目標とした時の上か下かという評価である。

#### 委員

しかし、認定こども園は28か所に達していないからと…。

#### 事務局

認定保育園の目標指標はアンケート結果ではなく、実績としての数の目標であるため、目標評価の取り方が違う。

#### 委員

別紙3の「説明」の列がものすごく小さい。それとカラー印刷をしたのであれば、「評価」の列を上昇、下降、横ばいを色分けすると一目瞭然ではないかと思う。

#### 委員

別紙3 No. 21の学力状況調査の対象は公立だけなのか。どういった基準で学力調査を行っているが、基準を教えてほしい。中学生が小学生に比べて全国平均より下まわっていることは、勉強が得意な子は九州の私立の中学校に行っているからでないか。

#### 下関市教育部

全国一律公立の学校のみで、対象は小学校5年生と中学生2年生である。年によって正答率の増減はあるが、小学校では全国を上回り、中学校では全国を下回るという結果が出ている。

#### 委員

自分の娘の周りを見て、やっぱり九州の私立中学校に流れているからなのだろうかと感じた。

#### 下関市教育部

東京でも優秀な児童を私立の中学に入学させるケースは多いので、条件としては変わらない。中学生が小学生に比べて点数が下がったという意味ではなく、全国と平均に対してどうなのかという点を判断いただきたい。

#### 部会長

意見も出尽くしたようなので、今後の審議会の開催について事務局より説明をお願いしたい。

#### 事務局

今後の審議会の進行について、専門部会が3回から4回ということでご案内を差し上げていた。審議の状況に応じて専門部会毎に回数が決まるということで、今回は3回目である。4回目の開催の有無について、皆様方にお謀りしたい。審議が今回で終了ということであれば、ご意見について8月19日に実施する部会長協議に委任していただきたい。

#### 部会長

4回目の開催について皆さまから意見をいただきたいのだが、いかがだろうか。

#### 委員

基本計画ではこれではいいのではないのか。皆様から出る意見は、基本計画レベルではなく、具体レベルの意見が多くなっている。部会としては、3回で良いのではないか。

#### 委員

部会長に一任したい。

#### 部会長

委員から3回でいいのではないかとご意見をいただいたが、十分な審議となると、どう

しても具体的な施策に関する意見になるので、私自身も3回で終了させていただきたいと思う。今後は部会長会議でよく検討していきたい。

#### **全委員**

(異議無し)

#### **部会長**

それでは今回で終了ということで、事務局から今後のスケジュール等について説明をお願いしたい。

#### **事務局**

委員の皆様には本日の内容についても議事録という形で資料をお送りする。意見をいただいた際には、部会長協議に提示する。

今後のスケジュールは、8月中旬に部会長協議を開催し、専門部会ごとの意見の摺り合わせ、意見交換、審議会からの答申に向けた論点整理を行う。部会長協議のメンバーは審議会の会長、専門部会の部会長と副部会長となる。9月には審議会委員の皆様からご意見をいただき、後期基本計画の原案を作成し、市議会に対して中間報告を行う。同時にパブリックコメント、市民への説明会を実施する。10月に2回目の全体の審議会を行い、第2次下関市総合計画後期基本計画の答申をいただくように考えている。

#### **部会長**

それでは、第3回審議会を終了したい。

#### **事務局**

部会長、副部会長は8月に部会長協議があるのでお願いすることになるが、それ以外の委員の皆様については、10月の審議会全体会議にご参加いただきたい。

以上